

(様式 1)

令和 2 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬立花中学校
校長名	佐藤 順一

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 2, 3 学年は全教科全国の平均正答率を下回っているか、昨年度と比較し多くの教科で全国との差を 2～3 ポイント縮めている。特に 3 年の理科は 7 ポイント縮めている。・ 1 年は全教科、全国の平均正答率を超えている。	<ul style="list-style-type: none">・ 2 年の社会が全国との平均正答率の差を -4.7 から -9.0 と差を広げている。・ 2, 3 年は依然として DE 層が 50% 近くいる教科がある。・ 1 年は DE 層が 30% となっているがさらなる削減を図っていききたい。また AB 層が区内他校より少ない

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 他のデータから比べると学級での支えや自己肯定感が高く示されているが、学力そのもの、生活や学習環境に課題が残る。	<ul style="list-style-type: none">・ 家庭学習の習慣に大きな課題があると同時に生活習慣に関しても改善していかなければならない。保護者への啓発活動に加え、定期的に学習習慣や生活習慣を見直す必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ どの授業も授業規律は保たれている。・ ロイロノートを活用した実践が始まっている。	<ul style="list-style-type: none">・ 授業以外に学習に取り組む時間が少ない。家庭学習に取り組む仕組みを作り、家庭の協力を得る。・ 放課後学習を充実させる。タブレットも積極的に活用していききたい。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 確認テストや校内テストの実施による知識技能習得の徹底

DE 層の引き上げのためには、定着するまで何度もくり返しの学習が欠かせない。授業内で取り組んだ内容を、宿題として課し、定着度を測るためのテストを各教科で実施していく。実施の頻度は各教科で設定していく。具体的な取り組みとしては、

- ① 定期的に小テストや単元テスト等の形式で確認する。またテスト等での授業内での解説を行う。
- ② 学習の習熟度を測るために、年 5 回の定期テストとは別に校内実力テストを実施する。3 年は年 4 回、1, 2 年は年 2 回実施し、国や都、区の学力調査の分析とともに学習に定着度や理解度を測る。
- ③ 広報 ICT 部の協力によりデータの処理を行い、DE 層の数値的な変化を確認していく。

(2) 放課後学習や家庭学習の充実

授業以外での学力向上を図る方針として、放課後学習や家庭学習の重要性を高めていく。これまでは区のふりかえりシートを家庭学習用の冊子にして、自主的に取り組ませてきた。課題としては、生徒の取り組む意欲に差があった。今年度後期より本校校務分掌進路学習部と学力向上委員会（放課後学習担当）が放課後学習教室「吾立学院」を立ち上げる。基礎的な知識・技能における課題を個々が把握し、目標、計画を設定し、問題データベースを活用しながら自分のペースに合わせて学習を進めていく。具体的な取り組みとしては、

- ① 進捗管理においては個別カードを作成する。
- ② 放課後学習教室において質問教室を開設する。
- ③ 担任や教科担当のみならずS S T等の支援員が管理していく。
- ④ 保護者にも周知し家庭からの協力を得る。

(3) 「主体的、対話的で深い学び」をめざす授業改善と評価の工夫

今年度の本校の研修のテーマは「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善である。新学習指導要領では各教科で身につけるべき資質・能力として「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」が示されている。生徒が学習内容を人生や社会の在り方と結び付け深く理解し、時代が求める資質・能力を身に付けていく必要がある。生涯にわたって生徒が能動的に学びつづけることができるようにこれまでの指導方法を生かし、さらに学習の質を一層高める授業改善を活性化していかなければならない。若手教員育成やO J Tの視点からもこれまで培われた教育技術を継承するとともに時代に合わせた新しい指導方法等を開発していくことが必須である。この取組は本校校務分掌進路学習部と学力向上委員会（授業改善担当）が担当し、具体的には下記の実践を行っていく。

- ① 教員向け授業づくりアンケートの実施 授業展開や内容から教材づくりやワークシート作成方法、実習や実験、板書等の指導技術まで実態を把握し、校内で良き指導を共有する
- ② 授業に関する様々な素材（上記①）を新学習指導要領の観点（知識、技能・思考判断表現、主体的な態度）にあわせ、生徒にどのような力を身に付けさせることを目的にしているのか等、その観点が明確になる授業を展開する。
- ③ 校内研究授業や校内研修等で上記②を発信する。
- ④ 上記②における評価方法を工夫する。パフォーマンス評価方法や形成的評価から総括的評価へ向けての評価計画等の開発を行い、指導と評価の一体化を行う。
- ⑤ 平成2年度中に旧4観点とは別に新3観点を評価を出す。

3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・現2，3年は各教科で全国平均を超える、又は全国との差をマイナス2ポイント以内にする。
- ・現1年は全国平均プラス5ポイントを目指す。
- ・DE層の割合を区の割合と同程度までに削減する。